



コロナの影響により、1年半程活動ができていませんでしたが、地域社会からの要望もありどのようにできるかを考え、感染対策や予約制度を取り入れ、少しずつ「まちの保健室」の活動を再開しました。

ふれあいプラザ明石西

コロナ禍で長期間の外出自粛生活が続き、人と話す機会が減り、健康への不安を感じている方もおられます。新型コロナウイルス感染症は未だ終息していませんが、「ふれあいプラザ明石西」では、令和3年9月に東播支部の第一陣をきって活動を再開しました。

ふれあいプラザのスタッフである保健師や健康運動指導士と共に、参加者を予約制とし、密にならないよう体組成計・骨密度計・健康相談の場所を配置し、実施しました。リピーターがほとんどでしたが、住民の皆さんは「まちの保健室」活動を心待ちにしてくださり、たくさんの笑顔を見ることができました。次年度はwithコロナでも出来る活動の内容を模索しつつ、少しでも地域住民の健康増進の一助となるよう取り組んでいきたいと考えています。



出前隊 コープこうべふれあいサロンさつき

「コープこうべふれあいサロンさつき」は、コープ大久保店2階の場所を使用して活動しています。例年であれば年に2回程度「まちの保健室」の出前隊活動を実施しています。

「ふれあいサロンさつき」は、元々地域住民を交えてカフェをしながら健康教室をおこなうコープこうべのサークルです。この度の「まちの保健室」活動もコロナ禍で不安もありましたが、「ふれあいサロンさつき」の方からの要望もあり活動開催に至りました。以前は、コープ組合員に広く声掛けをしていたところを、この度は手始めにサークルメンバー15名のみの参加で、体組成測定・骨密度測定などの結果をもとに健康相談を実施しました。健康相談の内容も幅広く介護申請や、かかりつけ医に相談した方が良い内容の相談も多くありました。

今回の活動で、改めて「まちの保健室」活動は必要とされていることを実感しました。



兵庫県立大学ボランティア看護師による健康相談

令和2年のパンデミック以来、県立大学の「まちの保健室」はボランティアによる活動を長期に休止していました。ようやく令和3年11月より1年半ぶりに再開することができました。

再開にあたり、感染対策を考慮した準備を行い、受付から計測・相談までの導線を整えました。また、コロナ以前のように来所者が来るのかという心配もあり、近くの公園やコミュニティセンターに、「まちの保健室」の再開を告げて回り、事前予約を取り当日を迎えました。

当日は、全員が予約の時間通りに来所され、「まちの保健室」の再開を「待ってました」と喜んでくださいました。相談では巣ごもり生活や家族の感染を、誰にも言えず辛かったなどコロナならではの内容が聞かれ、改めて「まちの保健室」の役割を感じています。



加古川駅南子育てプラザ

「加古川駅南子育てプラザ」は、12月20日にコロナ禍で初めての活動を行いました。33組の親子に来ていただき、赤ちゃんの身長や体重を測定しました。フェイスシールドを装着しての活動は、赤ちゃんがフェイスシールドを触ろうとしたり、赤ちゃんが泣いている環境では、フェイスシールドに声が遮られて、お母さんまで声が届きにくかったりと、問題点も見つかりました。身長・体重測定のほか、数名のお母さんから栄養についての相談を受けました。地域の方にとって「まちの保健室」が気軽に相談できる場になるように、感染対策を行いながら活動頻度を増やしていきたいと感じました。



ソーシャルディスタンスと言われ、物理的な距離を取りながら活動をしていきますが、地域の方の心に寄り添い、不安や思いを受けとめていけるようにしていきたいと思えます。

